

【18 天草市 Amakusa City】



天草空港から

天草市では、天草上島・下島の北側に広がる有明海沿岸のビーチや漁港、本渡港や鬼池港、下島の高台にある天草空港、上島の倉岳や老岳、下島の天竺山や染岳など、市北部の各地から有明海越しに“[南面～南西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。本渡港と宇土半島の三角港を結ぶ天草宝島ライン(高速船)からは、刻々と角度が変わり山の形が変化していく様子が楽しめます。市内の小中学校の校歌にも雲仙岳が多く登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

良く晴れた日には、恐竜やアンモナイトの化石で有名な南方の御所浦島からも眺望でき(↓)、雲仙天草国立公園のメインテーマである“[水陸の大展望](#)”が堪能できます。雲仙岳そびえる島原半島はユネスコ世界ジオパークに、天草諸島は日本ジオパークに認定され、大地の活動と関連付けて両地域の自然や文化が楽しめるようになっており、隣接する宇城市と共に雲仙天草観光圏を形成しています。また、倉岳や老岳、天竺山からは阿蘇山も眺望できることがあり、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

下島の西海岸を通る国道 389 号線は、雲仙天草国立公園を縦貫する道路で、阿久根市～長島～天草下島～島原半島～長洲～大牟田市と4県(鹿児島・熊本・長崎・福岡)をつなぐ道路です。この道路の通過市町村のうち、阿久根市以外はすべて雲仙岳が眺望できる市町村であり、ドライブしながら山の多様な表情を楽しむことができます。

雲仙岳の山岳宗教は、701 年に僧・行基によって開かれたとされますが、行基は初め天草方面から雲仙岳を眺望し、“あそこで修行をしよう”と決意して島原半島に向かったと言われています。

その後、中世の時代には両地域では基督教の布教が進み、キリシタン大名のもと、南蛮貿易で繁栄しましたが、豊臣秀吉・徳川家康による基督教禁教以降、領主の交代も相まって、厳しい信徒弾圧や過酷な徴税によって領民の不満が高まって行き、有名な“島原・天草一揆”へと突き進みました。一揆後のキリシタン潜伏の歴史は、同市内のサンタマリア館で窺い知ることができますが、同館の前のマリア像の奥には雲仙岳が横たわっています。幕末の頃には、島子地区に“対岳楼”と呼ばれる志柿村の庄屋さんの別荘があり、数々の詩人が雲仙岳を眺めて漢詩を詠んでいます。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、天草市内を旅してみませんか？

- 天草市の観光情報はこちら ⇒ 天草宝島観光協会 <http://www.t-island.jp/>
天草ジオパーク推進協議会 <http://amakusa-geo.amakusa-web.jp/MyHp/Pub/>



ありあけタコ街道から



御所浦島の鳥峠から